

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 高齢者グループホーム いこいの杜(Bユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392600037		
法人名	特定非営利活動法人 ケアセンターいこい		
事業所名	高齢者グループホーム いこいの杜(Bユニット)		
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字樋の沢25-1		
自己評価作成日	令和4年10月15日	評価結果市町村受理日	令和5年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道4号線近くに位置し、最寄りのバス停より500メートル以内、山目駅より2キロ以内、平泉インターチェンジより2キロ以内と交通の便も良い場所にあります。近隣は民家や自然に囲まれ、地域の交流も頻回に行われており、社会交流が継続しやすい環境です。施設内では利用者様一人一人に寄り添いながら、行事や毎日のレク活動、軽作業を通して楽しく自立した生活が継続していけるよう支援に努めています。コロナ禍の中、面会の規制や外出制限もありましたが、なるべく利用者様の思いをくみ取りソーシャルディスタンスを守りながら面会を行ったり、四季を感じられるようにドライブや散歩などの支援を行っています。更に、施設で楽しく過ごして頂けるように色々なレク活動や行事を取り入れたり、日々の食事なども季節を感じて頂けるようなメニューや昔ながらの食事を提供したりと創意工夫しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、旧国道4号線と4号バイパスに挟まれた田圃が広がる地域にあって、セメントプラント等の事業所や民家が点在する静かな環境の中に位置している。コロナ禍にあっても、近隣の農家から花の苗や野菜の苗が届けられ、利用者と職員と一緒に定植・管理し収穫している。収穫した野菜は、近隣との良好な関係のものに、食材やおやつに活用されている。職員は、コロナ禍で外食などの機会が持てない中でも、事業所内の行事に力を入れ、アイデアを出し合い「本気で楽しむ」をモットーに、職員がまとまり利用者とともに楽しんでいる。その原動力は、多くの若い職員が自由に提案できる風通しの良い職場環境、事業所運営の成果に他ならない。近年、離職者が出ていないのもその証左と考えられる。また、障がい者雇用にも取り組み、障がい者の就労の場の提供と社会参加の促進を担っていることも特筆される。今後の更なる取り組みが期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和4年11月11日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念・ケア理念をホールなどに提示し、日々の介護の指針となるようにしている。また、毎日社是を唱和している。	法人の理念と職員が意見を出し合い毎年度策定する事業所の目標を掲示し、職員はそれに沿った介護の実践に向けて意識を高めている。更に毎月の職員会議や日々の申し送り、ケアの振り返りの際にも、理念や目標に対する意識を共有しながらケアの実践に努めている。	法人理念や事業所年度目標、日常の支援などを確認しあいながら、職員の理念等に対する目線や方向性を合わせる機会を不断に持つことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や避難訓練、地域の交流などに関して、新型コロナウイルス感染症の影響で地域の方々を交えての開催を行えず、運営推進会議は紙面上のみ、地域の情報は広報や電話・1対1で屋外での対面のみで地域の情報を共有している。	コロナ禍のため、広報等で地域の情報を入手・共有しながら、可能なお付き合いや交流に努めている。以前は出来ていたような交流は制限されているが、地域の老人クラブ、会社による草刈りや窓ふきの奉仕活動は継続していただいております。近隣から提供される花の苗や野菜苗は、利用者の畑づくりに活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われているセミナーやケアカンファレンス等に積極的に参加し、情報を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で文章や電話での連絡や報告になっている。利用者様の様子や活動内容については写真などを利用して報告している。	昨年からは書面での会議開催となっている。委員から意見や要望等は、会議資料を届ける際に伺うように努めている。特に出された意見・要望等はないが、委員には、運営状況や利用者の暮らしの様子などを写真等でお知らせするなど細やかに伝達している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告時やその都度情報交換し、助言を頂きながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議メンバーに、担当部署の町保健センター職員が入っており、事業所に対する理解もあって、話しやすい関係にあり良好な関係にある。生活保護受給者も入居しているが、担当ケースワーカーとも連携がとりやすい関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、例を出しながら意見交換し、職員の理解を深めると共に、その都度身体拘束についての検討会議を行いながら、身体拘束のない対応の強化を目指している。	身体拘束をしないという考え方ではなく身体拘束はないということで利用者支援をしている。適正化委員会は毎月の定例職員会議で合わせて行い、結果は運営推進会議に報告している。スピーチロックは、職員間で相互牽制し防止に務めている。本人や家族の同意を得て、起床・離床のセンサーを使用している方もいる。玄関の施錠は夜間の防犯対策以外は行っていない。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、職員の理解を深めると共に、開けた環境を作り、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、職員に学ぶ機会を設け、必要性があれば関係者と話し合いながら活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に文章を含み説明を行い、不安や疑問点があればその都度説明し、理解・納得が図れるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、特にその場を設けることはなかったが、電話や面会時などに意見を頂いた際は、運営などに意見を反映させるようにしている。	面会や通院付き添いでの来所の際に、管理者又は職員が直接、意見等を伺うようにしている。電話等で意見が寄せられた場合は、管理者に報告のうえ職員全員で共有し対応している。事業所からは利用者の様子を「いこいの杜通信」で家族にお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、又は必要時個人面談を行い、職員の意見や提案などを聞く機会を設け、運営などに反映させている。	毎月の職員会議や日々の申し送り、随時のケアカンファレンスに加えて、管理者と職員の面談を年2回行い、職員の思いや悩み、提案を把握するようにしている。また、日頃から管理者は職員に話しかけるように心がけ、体調等を確認するようにしている。本人の希望や指定により、法人との面談も年2回実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価してもらう機会を設け、管理者がそれに沿った個人面談を行い、報告を受けている。その他にも職員がやりがいをもって就労できるように環境整備や条件の整備に努めている。		

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の進歩状況を踏まえながら内部研修や外部研修への参加の機会を設け、職員一人一人がケアの向上を目指せるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やケア会議、セミナーなどに参加することで、自施設以外の同業者と交流する機会を設け、情報交換し、自施設のサービスの質の向上などに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の調査時などで本人の思いや要望、不安になっている事、生活歴など聞き、本人が話しやすい環境を整えるようにし、安心して生活していけるという印象を与えるように尽力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の調査時などで家族の思いや要望、不安に思っている事など傾聴し確認しながら、なるべく家族に分かりやすいように説明し、疑問や要望などはいつでも受け付けている事を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等、必要とあれば関係者等などから情報の提供を求め、実際に必要と思える支援内容と更に他のサービスの併用の可能性をも視野に入れながら、本人・家族と今後の方針について確認し、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設で生活していきながらご本人様が出来る事を探求し、見極め、他の利用者様や職員と一緒に雑談を交えながら家事を行って頂いている。何かを行って頂くことで自分の居場所づくりや他者との信頼関係の構築にもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態など、面会時や電話、写真などでお知らせしながら情報交換を行い、なじみの関係を築きつつ、状況・状態変化時、緊急時など、家族・職員と共に協力しながら本人を支えていく関係を築いている。		

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の気持ちを大事にするよう心掛けていますが、コロナ禍で外出・外泊、思うような面会などできていないが、web面会などの窓口は設けている。	コロナ禍もあって、家族やかかりつけ医を除き思うような関係は継続出来ていない。2カ月に1回来訪する法人関係の理容店の方、草刈りや窓ふきに来訪される老人クラブや損保会社のボランティアの方々などとは新たな馴染みの関係が出来つつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を行っていくうえで、お互いを尊重し、助け合えるように、見守りしつつお互いの関係を把握しながら、時には職員が間に入りながら、楽しく共同生活が送れるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した際も、必要に応じてご本人・家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と話し合いながら思いをくみ取り、なるべく実現できるよう関係者間などで話し合いながら検討し支援に努めている。また、意思疎通が困難な場合には家族に生活歴や以前の趣味・嗜好などを聞き、本人の表情や仕草から意思をくみ取るようにしている。	事業所での暮らしはあくまで本人本位として、それまでの暮らしを継続していただいている。食事、入浴のように時間が決められているものも、声かけを工夫して、本人の意思を尊重し事業所の都合にならないよう心掛けている。お話の出来る方からは直接に意見や要望などを聴き取り、話せない方や意思表示が難しい方には選択できるように提案し、表情や言動、しぐさなどから、その思いや願いを推し量って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族、関係機関からの情報提供や、普段の会話の中から以前の生活歴や生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々職員間で情報交換することで、心身状態や本人の出来る事、出来るようになったこと又は出来ないようになったことなどの把握に努め、本人が無理なく生活していけるよう支援に努めている。		

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認しながら、必要な関係者や職員間で本人の現状を確認し、それに伴い、現状に沿った介護計画を作成している。	担当制を採用して1人の職員が1名から3名の利用者を担当し、毎月実施するモニタリングで全員で協議している。計画の見直しは状況によって、3か月から6か月に行っている。新たな計画や変更は、リーダー又はサブリーダーが家族に連絡し了承を得て作成している。入居時の介護計画は暫定で作成し、特に変化等が無ければ本プランに移行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケアの記録を行い、その都度問題点など職員間で情報共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々状況により、お互いに相談を重ねながら柔軟な対応をするように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人に必要と思われる地域資源をいつでも利用できるように地域資源の把握に努めている。更に地域の方々と交流することで本人がこの地域での暮らしを楽しめるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より情報提供の指示があればそれに従い提示し、緊急時など主治医・家族と連携を取りながら本人が適切な医療を受けられるように支援に努めている。	利用者家族の希望するかかりつけ医を受診している。通院の付き添いは家族を基本とし、必要に応じ職員が対応する場合もある。皮膚科ほか2医療機関の訪問診療がそれぞれ月1回ある。日常の健康管理は、月2回訪問する看護師とかかりつけ医の指導を得ながら職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回看護師が訪問し、利用者一人一人の状態を確認し、本人・介護職員からの相談を受け、助言を頂いている。また、必要時には主治医との橋渡しも行って頂き、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者の情報提供や家族との連絡などを速やかに行い、治療に専念できるようにし、更に入院中も適宜に情報提供を求め、スムーズに退院後の生活を送れるように医療との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期を迎えた際の対応について説明しており、都度意見を伺い、方向性について確認・話し合いをしている。	重度化や看取りの指針を作成し、入居時に重要事項の一つとして家族等に説明している。これまで看取りの経験はないが、必要になった際には、かかりつけ医の意見なども得ながら、利用者や家族にとって、最善の方法で全力で対応することとしている。看取り等の研修等も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成している。又、法人としてAEDを設置し、定期的に救急救命について講習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中想定・夜間想定火災・地震時の避難訓練を行っている。コロナ禍前は地域の方々にも協力を頂き避難訓練を行ってきたが、現在は職員のみで行っている。また、マニュアル作成と日々災害時に備えて備蓄の調整なども行っている。	年に2回の定期訓練を行っており、火災・夜間想定も考慮した訓練も実施している。ハザードマップ上の対象地域にはなっていないものの、水害への対応も話し合われている。地域の協力体制については、運営推進会議の委員の協力を含めて、引き続き検討課題としている。	最近、大雨が多発していることから、念のため、ハザードマップ上の対象地域ではないものの、いざという場合の避難や避難先について、町担当課と話し合いの機会をもつことが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室の際は本人への声掛けを行い、排泄に関してや個々のプライバシーに関することは個人を尊重した声掛けを行うように留意している。	豊富な経験と知識を有する人生の大先輩として敬意を払い、地域の風習や行事などについて教わっている。声掛けは「さん付け」で行い、居室入室の際には必ず了解を得るよう徹底している。入浴や排泄には、同性介助などにするなど、納得した介助としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声に耳を傾け、なるべく誠実に返答し、その人が施設の中で自分の思いや希望を表現し自分らしく生活していけるよう支援に努めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度日程は決められているが、その中に全てを合わせるのではなく、その人がその時々をどう過ごしたいのかを優先し、それに沿えるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望も取り入れながら、季節に合わせた服装になるように一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切って頂いたり、畑から収穫して頂いたり、食材に触れる機会を設け、楽しく食事が出来るようにし、片付けなどすることで利用者同士の連携が生まれている。メニューには利用者の希望なども反映させている。	献立は、これまで提供してきたものを活用・応用しながら、利用者のリクエストを取り入れ、季節の変化や行事に配慮して、管理者が作成している。朝と昼は職員が食事を作り、夜は、委託業者の調理食材を活用している。「おやつ」は、利用者職員で和気あいあいと楽しく作り、食べあっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通しての食事量や水分量を確認し、その人に合った食事形態・禁食なども把握しながら提供している。毎月体重測定を行い、主治医に栄養状態についての助言もいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に合わせた口腔ケアの支援を行っている。声掛け、見守り、一部介助など。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により個々の排泄パターンの把握や、本人の表情や仕草で声を掛け、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	殆どの利用者は、何らかの介護用品を着けているが、全員トイレを使用している。本人の希望により4名が夜間、居室でポータブルトイレを使用している。失敗しても、何もなかったように接するなど、尾を引かずに生活できるように支援している。事業所での暮らしが安定することによって、排泄が改善される方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、本人及び排泄記録により排便状況を確認し、乳飲料の提供や運動、水分補給などで便秘解消に努めている。また、主治医に相談し、薬による排便コントロールも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調面などに気を配りながら、一人一人ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援に努めている。また、入浴剤を投入したりなど、とりラックスして頂けるよう配慮している。	コロナ禍になり、利用者同士の接触を少なくするため利用者の身体的面を考慮し、機械浴の棟と一般浴の棟に居室を変更している。入浴は週2回、職員と1対1で行い、1日3人程度とし、入浴剤やゆず湯なども取り入れて、ゆったりと入浴出来るようにしている。入浴を嫌がる方には、時間を変えたり翌日に伸ばしたり、清拭や足浴で対応するなど、細やかに対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活習慣やその時々状態に応じて就寝時間を定めてはならず、日中も休息したい場合は本人の意思に沿って頂き、本人が安心して自分の時間を過ごせるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師、薬の処方箋にて薬の内容や副作用など把握するよう努めている。又、利用者の状態や症状の変化など、主治医と連携し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人役割を持つ事で施設に馴染むよう、本人の出来る事を模索し、家事を行って頂いている。又、本人のやりたいことや好きな事、好きな食べ物など都度聞くようにし、普段の生活やレク活動、行事に取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿うように家族と相談しながら支援に努めている。また、行事やレクなどにも利用者の希望を取り入れてドライブや散歩などの支援を行うようにしている。	コロナ禍にあっても出来る事はしようと、感染対策を万全にして近隣の毛越寺のアヤメ祭りなどに出かけている。通院時に家族と町内を散策したり、天候や体調と相談しながら、事業所周辺の散歩や外気浴を行い、ストレスを解消している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にて個別に現金を預かり、個別出納帳にて管理している。日用品やおやつなど、利用者・家族が必要とする場合はそれから購入支援を行っている。		

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話や手紙のやり取りが出来るよう支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁画などを利用者と一緒に制作したり、季節の花々を飾り季節感を出すように工夫している。また、こまめな換気と温度・湿度管理、環境整備など行い、利用者が落ち着いて過ごしやすいと思える環境に配慮している。	広い空間で明るく、食事用等のテーブルや椅子、ソファが中央に置かれ、エアコン等で温度等が管理され快適である。利用者は一人や複数で静かに又はおしゃべりしながら時間を過ごしている。季節感のある写真や近隣の方が作成した切り絵を壁に掛けるなどしている。また事業所内で利用者が写っている写真を掲示したり、季節感のある花を生けるなどの工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中の所々に椅子やソファを設置し、一人又は利用者同士語られる場所を作るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族、職員と相談しながら本人の使い慣れた物や家族の写真など、利用者が居心地よく過ごせるよう支援に努めている。	部屋にはベッドやクローゼット、洗面ユニットが備えられている。使い慣れたテレビや時計、カレンダー、家族写真、手づくりの作品などが、思い思いの所に掲げたり、置いたりしている。居室の入り口には、ご本人の名前と写真を掲示し自分の部屋と分かるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーになっており、共有スペースのトイレや動線には手すりを設置し、又居室前やトイレなどに写真や名前、目印などで分かりやすいように表示し、一人一人が自立した生活を送れるよう支援・工夫している。		